

第 530 号
令和 7 年 (2025 年)

10

静岡県

PTA 新聞



■ ■ ■ 主な内容 ■ ■ ■

◆わたしの主張 2025 静岡県大会

最優秀賞に沼津市立片浜中学校3年 加藤蒼士さん

<題名> 人間になった僕ができること

◆広報紙コンクール

【小学校の部】最優秀賞に静岡市立伝馬町小学校PTAの「てんま」

【中学校の部】最優秀賞に浜松市立浜松中部学園PTAの「PTAだより・さくざ」

◆「東から西から」今回の単P紹介

清水町立西小学校PTA・藤枝市立瀬戸谷中学校PTA・湖西市立白須賀小学校PTA

◆県P連だからこそできる『こども総合補償制度』をご存知ですか



静岡県 PTA 連絡協議会

私の主張 2025 静岡県大会 in 御前崎

最優秀賞に

沼津市立片浜中学校3年 加藤蒼士さん

＜題名＞人間になった僕ができること

静岡県教育委員会および静岡県青少年育成会議の主催による「わたしの主張 2025 静岡県大会」が、令和7年8月21日（木）に御前崎市民会館にて開催されました。

当日は、県内の市町から選出された中学生13名がそれぞれの思いを込めた主張を発表し、会場には多くの教育関係者や保護者が集まり、真剣な眼差しで耳を傾けました。

栄えある最優秀賞には、沼津市立片浜中学校3年 ^{かとうそうし}加藤蒼士さんが選ばれました。蒼士さんの発表は、将来は血の通った愛ある言葉の処方箋が出せる医師になりたいと力強く豊かな表現で聴衆の心を打つ内容でした。

以下に、最優秀賞作品と、入賞者および主張題名を掲載いたします。

最優秀賞



人間になった僕ができること

静岡県 沼津市立片浜中学校 三年 加藤蒼士

そこに愛はあるのか！僕は心の中でこう叫ばずにはいられませんでした。

2年前、40℃近い高熱が出た僕は病院に行きました。病院はかなり混んでいましたが、すぐに看護師がやってきて、検査をしました。そこから2時間程度待ち、ようやく自分の名前が呼ばれて先生の前に座

りました。するとその先生は顔も見ず、パソコンをパチパチ打ちながら言いました。

「インフルエンザだから。薬出しときます。はい、お大事に。」

そう言って診察が終わりました。僕は会話することなく、病院を後にしました。わずか5秒、といったところでしょうか。工場のベルトコンベアの上に乗って流れている機械部品は、きっとこんな気持ちなんでしょう。そんなことを思わずにはいられませんでした。なんと悲しいことでしょうか。診察は間違っていないし、薬もいただきました。おかげですぐに熱も下がりましたが、そうではない僕の中の違う熱が沸々と沸き上がり、頭の中で温度計の数字が徐々に40℃を超えていきます。くらくらと、なのに沸々した頭の中で、あの診察場面の5秒の映像が、僕が機械部品でないことを確認するかのように何度も繰り返し再生されます。そこに愛はあるのか！、そうつまり、愛、なかったのです。この時から、僕は医者に対してネガティブな感情を持つようになってしまいました。

その一年後、神様のいたすらなのか、再び僕が機械部品になる機会が訪れました。またインフルエンザになったのです。あの時と同じ病院に行き、看護師による検査、そして長い待ち時間。なるほど、今僕はベルトコンベアに乗っ

たのだと、理解しました。名前が呼ばれ、先生のもとに向かうと、前回とは違った先生でした。するとその先生は不思議なことから話始めました。

「学校はどう？部活やってるの？熱で休まないといけなから大変だね。」

（あれ？ベルトコンベアが、止まった？）

そこからしばらく中学校生活のことを話し、先生は何度も笑ったり悲しんだりの表情を見せてくれました。最後に先生は、この言葉を僕に与えてくれました。

「でも大丈夫！すぐ良くなるよ。」

なんと力強い響きの「大丈夫」なのでしょう。この一言が、どれだけ僕にとっての薬になったのでしょうか。この薬のおかげで、僕は機械部品から人間になることができたのです。皆さん、安心してください！愛、ありあました！

良い医者とはどんな医者でしょうか。それはきっと求める価値によって変わるものだと思います。これらの経験を経て僕が思うのは、言葉の処方箋を出せる医者って素敵だなということです。病気を治すため、雑談などせずとにかく一秒でも早く薬が欲しい人もいますが、僕はもうベルトコンベアには乗りたくないのです。最近、AIの発達によって医者が必要なくなる可能性があるというニュースを見ました。最新の医療と正確かつ迅速な診断、場合によっては手術も可能になるとのことでした。医者不足の解消にも繋がり、今後ますますAIの研究開発が進んでいくのだそうです。これは大変喜ばしいことです。でも、ちょっと待ってください。大事な事を忘れています。AIは、僕の日常の事、聞いてくれますかね？インフルエンザになったとき、バスケット部の練習試合があったのです。出られない自分を責めて、落ち込んでいた僕を救ってくれたのは、間違いなく人間の先生でした。何でも便利になるからと、すべてを機械も頼ってしまうのは間違っていると僕は思います。元機械部品の僕が言うのですから、間違いありません！AIは正確に言葉を話すため、医療分野で「必ず」や「絶対」といった表現は使わないそうです。

そこで、一つの使命が僕におりてきました。僕が医者になります。そして、僕は患者さんに言わなければいけない言葉があります。

「必ず先生が治してあげるから、絶対大丈夫！」

皆のAIベルトコンベアは僕が止めます！



「わたしの主張2025静岡県大会」審査結果

【最優秀賞】

氏 名	学校名	学年	題 名
加藤 蒼士	沼津市立片浜中学校	3	人間になった僕ができること

【優秀賞】（発表順）

氏 名	学校名	学年	題 名
金田 ゆな	沼津市立愛鷹中学校	3	向き合って見える世界
樽松 里哉	浜松市立佐久間中学校	3	地域と自分
徳永 梨良	静岡大学教育学部附属浜松中学校	3	真のコミュニケーション

【優良賞】（発表順）

氏 名	学校名	学年	題 名
山下 ラリサ	静岡県西遠女子学園中学校	3	私を作るもの
石渡 葉奈	三島市立中郷中学校	3	食わず嫌いをやめて
一杉 奈緒	静岡市立豊田中学校	3	脱マスクの時代で
若林 純那	静岡県立中央特別支援学校中学部	3	戦争のない世界へ
伊藤 亜姫	御前崎市立浜岡中学校	3	「私たちに託されたもの」
坂部 いろ花	清水町立清水中学校	3	伝えたい思い
山下 ひなた	磐田市立豊田中学校	3	マスクとわたし
芦沢 真央	静岡市立服織中学校	3	中学生である今、私達に求められていること
堀川 莉花	吉田町立吉田中学校	3	挑戦を恐れない

【共感賞】

氏 名	学校名	学年	題 名
加藤 蒼士	沼津市立片浜中学校	3	人間になった僕ができること

【入選】

氏 名	学校名	学年	題 名
鈴木 ひより	御殿場市立富士岡中学校	3	「生きた証」を残すために
河西 凜	裾野市立西中学校	3	「働く」ということ
小林 杏	裾野市立深良中学校	3	大丈夫
佐藤 明妃	不二聖心女子学院中学校	1	「大丈夫？」
小栗 良介	御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校	3	それで終わりではない
青木 叶子	磐田市立南部中学校	3	努力
古山 愛結	袋井市立周南中学校	3	言葉ではないコミュニケーション
菅田 恵似	磐田東中学校	3	性の違い

138校
9,391人

（国公立私立中学校の全県）
（国公立私立中学校の全県）

私の主張 2025 静岡県大会 in 御前崎

「わたしの主張 2025」

審査を務めて

静岡県県P連 理事 森 浩子

今年で 47 回目を迎える「わたしの主張 2025 静岡県大会」は御前崎市で開催されました。

今回、審査員を務めさせていただき、大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。同じ中学3年生の子供を持つ親として、中学生が今どんな事に関心を持ち、どんな事を考えているのか興味を持ちました。事前配布された原稿が届いたのがちょうど盆休みの初日だったので、自分なりに何回も読みました。部活動、AI、戦争や自分の住んでいる地域、コロナによるマスク着用など、どの作品も日常の体験や身近な出来事を通じて学んだことが誠実に書かれていて、驚かされました。

大会当日は、会場に入ると、中学生の人たちが受付、会場案内などしてくれていました。大会の運営の人から「午前中何回も練習してにみなさんすごく上手でしたよ。」と言われ、楽しみでした。発表の中には、家族や友人との関わりを大切にする気持ちや、地域や社会の課題に対して、真剣に向き合う姿勢が表れていました。特に、自分の意見をストーリーみたいに説明し、聴く人に「なるほど」と思わせる力を持った主張に感動しました。原稿を読むだけでは感じられない臨場感があり、堂々と発表する姿、落ち着いた雰囲気の中で聴衆を引き込む姿は、まるで舞台俳優のような手ぶりや声の表現力など感情豊かで表現あふれる発表など、さまざまでした。緊張感の中にも熱意と迫力が伝わってきました。中学生とは思えない表現に心奪われ、5分30秒という時間があっという間に過ぎていきました。発表者の皆さんが何度も練習を重ねてきたことが感じられ、一人ひとり大切にしている思いや経験がしっかり伝わってきました。

審査をしながら、私自身も「自分の考えを持ち、言葉で表すこと」の大切さを改めて学びました。人に伝えることは少し難しいですが、その分うまく伝わった時の喜びも大きいものです。また、社会のことや人とのつながりについて真剣に考えている姿に触れ、未来への希望を感じました。

最後に、発表を頑張った皆さん全員に拍手を送りたいと思います。緊張しながらも自分の思いを伝えようとしたその経験は、これからの生活に必ず役立つと思います。これからの皆さんの活躍を心から応援しています。

ありがとうございました。





最優秀賞に

静岡市立伝馬町小 PTA と

浜松市立浜松中部学園 PTA に！

今年度も「PTA 広報紙コンクール」に多くの学校からご応募をいただき、ありがとうございました。

審査の結果、最優秀賞には小学校部門で「静岡市立伝馬町小学校 PTA」、中学校部門で「浜松市立中部学園 PTA」が選ばれました。優秀賞および優良賞については、以下の通りです。

PTA 広報紙は、現在の PTA が直面している課題や活動の様子を発信する、大変重要な役割を担っています。また、保護者の皆様に PTA 活動の必要性や関心を持っていただくためにも欠かせないものです。

静岡県 PTA 連絡協議会では、「家庭・学校・地域がつながりあい、子どもを育てる PTA 活動の推進」をテーマに掲げており、各校の広報紙を通して多くの取組を紹介できることは大きな意義があると考えております。

今後も、各学校の PTA 活動の参考となるような優れた広報紙をお待ちしております。来年度も多くのご応募を心よりお待ちしております。

令和 7 年度 静岡県 PTA 連絡協議会広報紙コンクール 審査結果

部門		P T A 名	広 報 紙 名
小学校の部	最優秀賞	静岡市立伝馬町小学校 PTA	て ん ま
	優 秀 賞	静岡市立西豊田小学校 PTA	せ い く ら べ
	優 秀 賞	静岡市立清水有度第一小学校 PTA	し ゃ ち ほ こ
	優 秀 賞	浜松市立船越小学校 PTA	ふ な こ し
	優 良 賞	沼津市立第一小学校 PTA	日 輪
	優 良 賞	富士宮市立上野小学校 PTA	風 の さ さ や き
	優 良 賞	静岡市立清水駒越小学校 PTA	は ま す か

部門		P T A 名	広 報 紙 名
中学校の部	最優秀賞	浜松中部学園 PTA	PTA だより・さくざ
	優 秀 賞	静岡市立高松中学校 PTA	た か ま つ
	優 秀 賞	静岡市立城内中学校 PTA	J o n a i P r e s s
	優 秀 賞	静岡大学教育学部附属浜松小中学校 PTA	附 属 小 中 だ よ り
	優 良 賞	富士宮市立上野中学校 PTA	う え の
	優 良 賞	静岡市立清水第二中学校 PTA	桜 ケ 丘
	優 良 賞	浜松市立天竜中学校 PTA	竜 想

部門		P T A 名	広 報 紙 名
WEB版	優 良 賞	焼津市立和田小学校 PTA	和 風

・小学校部門

最優秀賞



〈静岡・伝馬町小〉

・中学校部門

最優秀賞



〈浜松・中部学園〉

・Web 部門

優秀賞



〈静岡・西豊田小〉



〈静岡・清水有度第一小〉



〈浜松・船越小〉

優良賞



〈沼津・第一小〉



〈富士宮・上野小〉



〈静岡・清水駒越小〉

優秀賞



〈静岡・高松小〉



〈静岡・城内小〉



〈静大附属浜松小中〉

優良賞



〈富士宮・上野中〉



〈静岡・清水第二中〉



〈浜松・天竜中〉

優良賞

焼津市立和田小学校 PTA <https://wada-e-pta.jp>

東から西から 単 P 紹介

清水町立西小学校 PTA
藤枝市立瀬戸谷中学校 PTA
湖西市立白須賀小学校 PTA

の紹介です

思い出いっぱいの西小学校

令和7年度 清水町立西小学校 PTA 会長 古森愛奈

清水町立西小学校は、昨年度、開校 50 周年という大きな節目を迎えました。長い歴史の中でたくさんの卒業生を送り出し、地域社会に貢献してきた西小学校の先生方や地域の方々、保護者の皆さんと共に歩んできたこの西小学校の卒業生であるとともに、今は子供を通わせる保護者として関わっていることを心から嬉しく思っています。

そのような思い出深い西小学校の「50 歳」という記念すべき誕生日をお祝いするために、盛大なイベントにしたいと考え、PTA 役員や学校運営協議会の方々と相談を重ね、「思い出ウォーク」を行うことにしました。思い出ウォークでは、夏休みの期間を利用し、先生方にご協力をいただきながら学校全体を一日開放させていただくことができました。

「ランドセルを背負って、記念写真を撮れるコーナーが面白そう」「小学生に戻って、教室で勉強してみたい」「自分が卒業した年の卒業アルバムが見てみたい」「50 周年限定の記念品を作ってはどうか？」…、次々と出てくるアイデアに一喜一憂しながら皆で考える時間は、まるで小学生の頃のわくわくした気持ちがよみがえり、とても楽しく、心に残るひとときになりました。

短い期間でしたが準備に準備を重ね、いよいよ当日を迎えました。この日を迎えるまで、どのくらいの方が来てくれるのだろう…と不安な気持ちもありましたが、開始前から昇降口の近くにはたくさんの方が集まり、盛況を予感させました。イベントスタッフとしてたくさんの方と話をする中で、1, 2 年前に西小学校を卒業したばかりの中学生から、西小学校の 1 期卒業生という方まで、幅広い年齢層の方が来てくれたことがわかりました。小学校時代の思い出話に盛り上がっているグループや、数十年ぶりに旧友と再会して喜んでいる方々、西小卒業生の方が作製してくださったこの日限定の記念品を手に取り嬉しそうな顔を見せている方など笑顔で溢れていました。

今回のイベントを行うにあたり、今も子供たちが生活している学校を使わせてもらうということで、SNS などで個人情報が出まらないう、積極的に声をかけました。運営する一員として、「皆が楽しむ」ためのイベントを行うことの難しさも実感しました。

結局、その日は 300 人以上の方が学校を訪れ、思い出ウォークは大盛況で幕を閉じました。先生方は勿論のこと、準備から当日の運営に携わってくださった保護者の方々、卒業生の方々に心から感謝しております。私はこの「思い出ウォーク」というイベントを通じて、西小学校という学校を誇りに思う気持ちが強まりました。

この思い出深い西小学校で、子供たちの保護者として、PTA 役員として、これからも多くの方と積極的にかかわりながら、時代の変化に応じて PTA 活動のあり方を考えつつ、西小学校の長い歴史や伝統を大切に守り続けていきたいと思えます。



家庭・学校・地域と連携し、 社会教育実践 PTA 集団を目指そう！

令和7年度 藤枝市立瀬戸谷中学校 PTA 会長 向島和詞

瀬戸谷は、藤枝市の北部に位置し、美しい川と緑豊かな山々に囲まれた自然豊かな環境にあります。

新東名高速道路や国道1号バイパスからのアクセスも良好で、お茶やしいたけなど四季折々の農作物が豊富にあり、温泉やキャンプ場等も整備され、訪れる方々も増えています。

瀬戸谷中学校は、本年度創立70周年を迎えました。全校生徒が40名程度という小規模校の利点を生かして、子ども一人一人を大切にした教育を推進しています。異学年集団での活動が盛んで、ピア・サポートの温かな雰囲気の中、全校生徒が仲良く学校生活を楽しんでいます。地域とともに歩む学校を目指し、地域やこども園、小学校との連携を密にして教育活動を進めています。特に瀬戸谷小学校との小中一貫教育は、本年度9年目となり、年間を通して小中学校で乗り入れ授業や小中合同の行事を行うなど、9年間の学びや育ちをつなぐ「瀬戸谷らしい」充実した教育活動を展開しています。本年度は、小中合同入学式を行い、瀬戸谷全体で入学生をお祝いしました。また、「せとやまるかじり」などの地域行事への参加や地域のサロンとの交流などを通して、地域との関わりを深めています。

本校のPTAにおいては、子どもの数の減少とともに、限られた人数で運営していくことを考え、負担軽減をしながらも、家庭・学校・地域と連携し、充実した活動を目指しています。負担軽減の取組として、昨年度より、PTA総会を紙上開催にし、本年度は運営委員会の数を1回減らしました。

主なPTA活動としては、「親子環境整備」と「朝の挨拶(交通安全)運動」を実施しています。「親子環境整備」では、普段使用している教室やトイレ、プール等、また普段手が届かないエアコンやグラウンドの側溝等を子ども、保護者、教員が協力してきれいにします。教員からは、子どもたちの学校での様子を聞くことができます。保護者同士が顔を合わせる機会が減っている中で、子どもたちも含めて保護者同士の会話も弾み楽しい活動になっています。

「朝の挨拶(交通安全)運動」では、PTA会員が登校時間に危険箇所や横断歩道に立ち、挨拶と交通指導を行います。担当した保護者からは、「初めての自転車通学で心配もありましたが、先生や地域の人たちから



交通指導をして頂き安心しました。」「子どもたちから気持ちのよい挨拶があり、朝からとても良い気持ちになりました。」等の感想が届いています。

瀬戸谷中学校のPTA活動は地域の方の協力に支えられています。子どもと一緒に積極的に参加することで地域からも愛され、安心して楽しく学校生活を送れる環境づくりをするとともに瀬戸谷の未来につながる活動となっていくと嬉しいです。

持続可能なPTA活動と地域との連携

令和7年度 湖西市立白須賀小学校 PTA会長 江川琢哉

一白須賀「しらすか」一南に遠州灘、西に愛知県境が隣接しており、江戸時代には、東海道32番目の白須賀宿で遠江の国の西の玄関口でもあった場所。白須賀小学校は周囲に赤土の畑が広がり、ジャガイモやダイコン、キャベツなどが収穫され、野鳥の鳴き声がこだまする自然豊かな土地にあります。令和7年で創立153年目を迎える歴史ある学校です。地域の方々もとても協力的で子供たちの様子をよく見てくれます。



白須賀小学校

近年、県内どこも同じ傾向かと思いますが、全校児童数は年々減少し、それに伴ってPTA会員数も減少しています。そのため、会員はかなりの確率で役員をやらなければならない、保護者の大きな負担となっていました。

そこで、「誰もが、無理なく・無駄なく・難しくなく取り組めるPTA活動」を目指して、令和6年度より主に次の二つのことに取り組みしました。

一つ目は、組織のスリム化・役員参加行事の精選です。令和5年度までは、本部役員5人、地区委員15人



NPO法人のみなさんとビオトープ清掃

(専門部委員等を兼ねる)の20人体制だったのを、思い切って組織をスリム化し、本部役員5人としました。そして、これまで20人のうちの担当役員や委員が参加していた常任委員会や運営委員会といった各種会合、奉仕作業や学校保健委員会、共同調理場委員会、持久走大会監察、授業参観や運動会の写真撮影、PTA新聞の年間2回発行、会計監査などの参加行事を精選し、参加者を本部役員中心に割り振りつつ、保護者や地域の方々から広くボランティアを募集するという方式に変更しました。

二つ目は、各活動のボランティア募集です。参加可能な保護者や地域の方々にボランティアとして参加をしてもらい、運営がスムーズにいくようにすることで、持続可能なPTA活動になるよう工夫しました。これまでにボランティアを募った内容としては、運動会の準備や片付け、安全確保、奉仕作業、持久走大会の監察。さらに、地元のNPO法人「シラスカリフォルニア」に学校ビオトープの清掃への協力を依頼したところ、快く引き受けてくださり、子供と一緒に清掃活動を行いました。

その他にも、読み聞かせや、家庭科(裁縫・ミシン)の授業、さらに、民生委員さんにも地域の方々への呼びかけを依頼し、登下校の見守りを行っていただくなど、ボランティアの輪が広がっています。

白須賀の子供たちを、学校、保護者、そして、地域住民と一緒に育てていく体制ができつつあります。このような運営を心掛けることで、児童数や家庭数が減少しても、誰もが、無理なく・無駄なく・難しくなく取り組める持続可能なPTA活動になっていくと考えています。



ボランティアさんによるミシン補助

こども 総合補償制度

県P連だからできる「こども総合補償制度」ご存知ですか

「静岡県自転車の安全で適正な利用に関する条例」により自転車保険加入が義務化されたことをきっかけに、県P連が契約者になって全県化を網羅する「こども総合補償制度」が誕生し、令和2年度から募集が始まりました。

おかげさまで令和7年度は、県下で約2万人の保護者にご加入いただくことができました。

制度策定の最大の目的は義務化された自転車保険の加入漏れを防ぐことでした。しかし、静岡県の抱える地震・噴火・津波等の心配や新型コ

ロナウイルス等感染症への対応、また学校から貸与されたPCの破損など、「保護者ファースト」のきめ細かなプランが大変好評です。

そして何より、県下会員24万人強というスケールメリットを生かした最高割引率（40%程度）が適応できたのが大きな魅力です。

令和7年度も募集が続いています。まだ未加入の皆様はぜひご検討ください。



静岡県PTA連絡協議会
会長 長澤 秀幸

日頃は県PTAの活動につきましてご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

令和7年度から「家庭・学校・地域がつながりあい子どもを育てるPTA活動の推進 ～新たな可能性を創造しよう、次世代に繋ぐため～」というテーマを設定し、すべての子どもたちの笑顔と健やかな成長のために、各地区PTA連絡協議会と協力しながら活動を進めています。引き続き、PTA活動にご協力をお願い致します。

さて、令和2年度にスタートした「こども総合補償制度」は、県P連会員およそ24万人のスケールメリットを生かし、令和7年度は約2万の保護者の皆さまにご加入いただきました。

県P連事務局として多くの県内小中学校の子どもたちに安全・安心をご提供することができ、とても嬉しく思っております。

今年度も、大切なお子様をお守りするために、自転車等による損害賠償・けが・学校から貸与されたPCに対して手厚く補償する本制度へのご加入をご検討頂きます様、何卒ご検討宜しくお願い致します。

静岡県PTA連絡協議会 会長 長澤 秀幸

自動車保険加入のお願い

静岡県PTA連絡協議会様におかれましては、日頃から自転車保険の普及・啓発にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

本県における自転車事故は令和6年は前年比で減少しましたが、250人以上の小中学生が自転車事故で負傷しました。

一方、国内では、近年、児童・生徒が加害者となる自転車事故であっても、1億円近い賠償を命じる判決が下されています。

静岡県では、自転車の利用者等に対し、損害賠償保険等への加入が条例によって義務付けられています。

各家庭におかれましては、今一度、自転車事故の賠償に対応する保険加入について確認していただくとともに、大切なご家族の命を守るため、自転車利用時には乗車用ヘルメットの着用を徹底してくださるよう、よろしくお願いいたします。

静岡県くらし交通安全課



©静岡県

静岡県PTA連絡協議会 こども総合補償制度

令和7年度は1万6千人を超える保護者にご加入

【制度の特徴】

1. 熱中症になった場合も補償
2. いじめ問題などの弁護士費用を補償
3. 自転車事故や日常生活等の賠償事故に対応
4. 日常のけがを24時間補償
5. 学校から貸与されたPCの補償対応

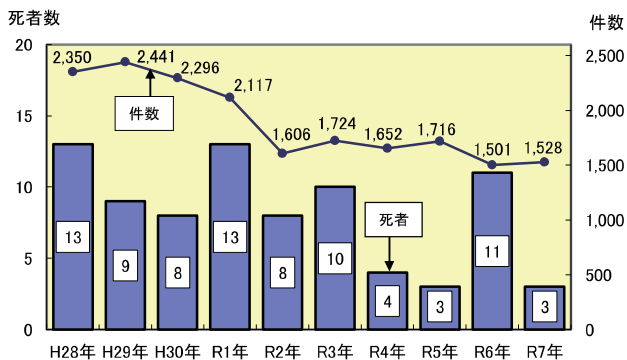
自転車事故 令和7年7月末

静岡県警察ホームページ内静岡県の交通事故統計資料より抜粋

1 発生状況

区分	自転車事故			全事故		
	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者
令和7年	1,528	3	1,486	9,320	36	11,618
令和6年	1,501	11	1,447	9,993	39	12,566
増減	27	-8	39	-673	-3	-948
比率	1.8	-72.7	2.7	-6.7	-7.7	-7.5
構成率	※ 構成率は、全事故に占める自転車事故の割合。					
R7年	16.4	8.3	12.8			
R6年	15.0	28.2	11.5			

2 過去10年間の推移



「自転車安全利用五則」を守りましょう！！

自転車安全利用五則

- ① 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- ② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- ③ 夜間はライトを点灯
- ④ 飲酒運転は禁止
- ⑤ ヘルメットを着用

**自転車保険には必ず入ろう！！
ヘルメットも忘れずに！！**

静岡県交通安全対策協議会



©静岡県

交通安全トウの巻

～安全をつなげて広げて 事故ゼロへ～

発行 静岡県 暮らし交通安全課 (電話 054-221-2104)

～大切な命を守るために～

自転車を運転する時は、**ヘルメット**をかぶり、頭部を保護しましょう！
(※自転車の運転者等の遵守事項 道路交通法 第63条の11)

自転車は便利な乗り物ですが、令和6年1年間で**14人**の方が自転車運転中に命を失っています。

自転車事故死者数の致命傷は
頭部が約6割！
ヘルメットをかぶっていないと致死率が約2倍！

交通事故は、他人事ではありません。
ヘルメット着用のほか、信号機や一時停止標識等の交通ルールは必ず守り、安全運転をこころがけましょう。



©静岡県

県暮らし安全課
動画ヘアクセス



◆編集後記◆

長かった夏の猛暑もようやく落ち着き、気がつけば蝉の声から虫の音へと移り変わり、田んぼの稲穂も黄金色に色づき始めています。季節は確実に秋へと向かっています。とはいえ、まだまだ10月とは思えないほどの気温が続き、衣替えも戸惑う毎日です。

思い返せば40年以上前、私が学生だった頃の「体育の日」（今のスポーツの日。当時は10月10日と決まっていた）は、朝晩は肌寒く、日中でも日陰に入ると長袖が欠かせませんでした。今のように半袖・短パンで過ごせるなんて、想像もつきませんでした。温暖化の流れとともに、気候の感覚もずいぶん変わったものです。

さて、県P新聞は年間5回（6月・8月・10月・12月・3月）の発行を予定しています。それぞれの号を手にとったときに、「季節を感じるなあ」と思っただけのような紙面づくりを心がけていますが……。

そんな中、8月21日には「わたしの主張 2025 静岡県大会」（静岡県青少年育成会議主催）が御前崎市民会館で行われました。県内から選ばれた中学生たちが思いを込めて発表し、最優秀賞には沼津市立片浜中学校3年・加藤蒼士さんの「人間になった僕ができること」が選ばれました。

加藤さんの作品は、病院で出会った医師の言葉を通して、「人としての温かさ」について語ったものです。たった一言の声かけや、ちょっとした心遣いが、人の心をあたためたり、反対に寂しくさせたりします。

最近はAIの進歩で、人が担ってきた役割の多くが機械に置き換わりつつあります。とても便利な時代になりましたが、それでも“人にしかできないこと”があります。それは、思いやりや気遣いといった、目には見えないけれど確かに伝わる温かさです。

私自身も、PTAの活動を通じて、そうした温かさをお届けできればと思っています。「PTAっていいな」「関わってよかったな」と思っただけのよう、これからも力を尽くしていきたいと思います。

このたびの9月5日に発生いたしました台風15号の影響により、静岡県内では記録的な大雨や竜巻、突風が相次ぎ、多くの方々が負傷され、また住宅をはじめとする建物被害も2,000棟を超える甚大な被害が発生いたしました。

被災されました皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。



県P新聞 10月号

2025年10月15日発行

〈発行〉静岡県PTA連絡協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12

静岡県教育会館 4F

☎ 054(253)8223 FAX 054(251)9672



〈編集〉大日三協（株）☎ 054(263)2435